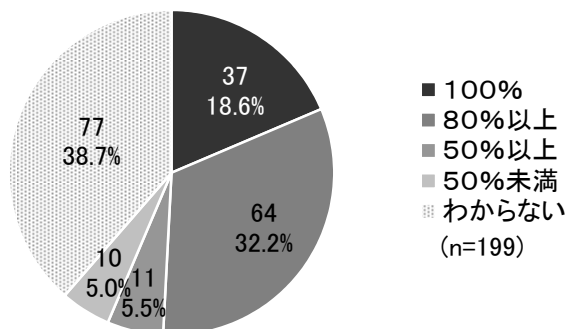


1. MR認定証の携行、MRバッジの着用の割合



1) MR認定証の携行、MRバッジの着用を、あまりしない理由
コメントには92社、104項目の記載がありました。集計は以下のとおりです。

合計	104
確認・集計をしていない	58
企業として指示はしているが、医療機関で提示を求められない	16
紛失防止を懸念する	8
理解不足や指示徹底ができていない	7
スーツ替えて忘れる・面倒（バッジ）	4
派遣契約のため確認できない	2
MR以外の職種が活動	1
強制力（罰則）がない	1
他	7

MR認定要綱でMR認定証の携行とMRバッジの着用を求めている。「50%以上できている」の割合が、56.3%ある一方で、依然として「わからない」の割合が38.7%もある。理由の多くが「確認・集計をしていない」であり、教育研修部門としてMR認定要綱の遵守に関心を持ってもらいたい。また「医療機関から提示を求められない」、「強制力（罰則）がない」も携行、着用しない理由にならない。高い志と使命感を持ち、患者志向に立ったMR活動を行う自負の表れとして、MR認定証の携行とMRバッジの着用を求めているものであり、その意味を浸透させるとともに割合を高める工夫を行って欲しい。

2. MR認定制度に対する社内の理解度

	企業 の トップ	営業 部門	マー ケ テ ィ ン グ 部 門	メ デ ィ カ ル ア フ ェ ア ー ズ 部 門	学 術 、 学 術 情 報	信 安 全 管 理 ・ 品 質 保 証 ・ P V	コ ン プ ラ イ ア ン ス 部 門	研 究 ・ 開 発 部 門	人 事 部 門
十分に理解されサポートしてもらえる	20.6%	39.2%	21.1%	10.6%	40.7%	39.7%	33.2%	6.0%	15.6%
理解されている	39.2%	50.3%	36.2%	23.1%	24.6%	30.7%	34.2%	13.6%	33.7%
歴史や意義を多少は知っている	18.1%	7.5%	12.6%	13.1%	10.6%	14.1%	13.1%	15.1%	21.1%
歴史や意義は知らない	8.0%	0.5%	3.0%	4.5%	2.5%	5.5%	3.5%	14.6%	12.6%
わからない	13.6%	2.0%	4.5%	10.1%	3.0%	6.5%	9.0%	35.7%	14.6%
該当する部門がない	0.0%	0.5%	22.1%	37.7%	17.1%	3.5%	6.5%	14.6%	2.5%
無回答	0.5%	0.0%	0.5%	1.0%	1.5%	0.0%	0.5%	0.5%	0.0%

徐々に社内の各部門の理解度が高まってきているのではないかと。まだ変化は大きくはないが、地道に企業理念の実現とMRの将来ビジョンの達成に向けて、協業できる部分はまだまだあるのではないだろうか。センターでも2026年の制度改革に向け、企業トップへの働きかけも強化したいと考えており、具体化した段階で通知等で周知したい。

3. MR認定センターの教育研修への支援体制に対する意見・要望

コメントには129社、139項目の記載がありました。集計は以下のとおりです。

合計	139
教育研修事例共有・他社研修部門者との交流機会	19
教材・ドリルについての要望*	17
電子化の要望（認定証・請求書等）	6
研修開催の要望（教育研修担当者のスキルアップ・研修手法）	6
個人学習サポートの強化	4
センターからの情報発信の方法	4
管理システムの効率化	4
登録企業へのサポート強化	3
ハイブリット形式の会議継続	3
企業トップへのセンターからの働きかけ	2
資格化へのチャレンジ	2
登録時の個人情報内容の見直し	1
企業説明会での資料提供への要望	1
問い合わせ対応への改善要望	1
お礼39、特になし16、他11	66

*「教材・ドリルについての要望」の項目について実際のコメントを記載します

MR白書で共有いただける各企業のコメントは大変参考になっています。自社の悩みの共感だけでなく、解決への手掛かりとなることも多くあります。実地教育により、成果や現場のモチベーションアップに繋げる上で、他社が工夫している具体的な教育内容を知る機会が増えることを要望します(講演・書面)。倫理教育に関するテーマ(案)や資料の提供をいただきたい。その他の教育に関するテーマ(案)を提供いただきたい。指導育成に関して、評価者の「目線合わせ」をどのようにすればよいかを教えていただきたい。

昨年10月の教育研修推進者会議において、対面で他社の方と研修に関して情報交換を行う機会が非常に役に立ちました。他社からの視点を一言でもいただけることで、自社では当たり前だと思っていたことを見直すことに繋がりました。今年も他社との情報交換を行える場のご提供をいただけますとありがたいです。一点ご提案があります。今後の教育推進者会議などのテーマとして、「AIなど各社のデジタルツールの研修へ活用」を取り上げるのはいかがでしょうか？ご検討の材料の一つに加えて頂けると幸いです。

MR認定センター20周年記念事業で制作した「わすれない言葉」のようなものを導入教育で活用できるとありがたい。

より医療施設に関する理解を高めるために、MR(特に新人)が実際の医療現場(病院や薬局の調剤室など)を見学に行く協力施設があれば紹介していただきたいです。

以前に作成いただいた「MRのための倫理教育」のような資料を作成いただくと各企業の倫理教育のレベル感が合うように思います。またそれが低価格で利用できると大変助かります。

日本薬剤師研修センターのような形で、企業研修のサポート教材や研修の充実を希望します。

基礎教育年次ドリルの未受講回数によって、更新時ドリルの問題数を変えていただきたい(1回でも未受講だった社員の受講モチベーションを保つため)

いつもご指導いただき有り難うございます。丁寧な対応に感謝しております。要望として挙げる点としては、MR導入テキスト(電子版)を使い始めましたが、やや使いにくいです。今後改善されていくことを期待しております。

十分支援していただいているので、特に要望はありません。各種ドリルの問題数を少し減らしていただければと、産休や育休から復職したMRの負担が減るのではないのでしょうか。MR認定センターが開催するイベント(意見交換会を含む)が少し多いと感じます。また早めに終了することもしばしばありますので、初めから必要な時間を正確に見積もっていただえますとありがたいです。

まず実務教育の7科目の明確な定義を倫理教育と安全管理教育以外も定めていただきたいです。センターへ申請するSBOが倫理教育・安全管理教育・技能教育の3科目であっても、実際は7科目分の目標を立て実行していても、センターからは3科目のSBO内にすべての科目分の目標や結果報告を盛り込まないと「やっていない」と判断されてしまい、何のための科目分けなのかと悩んだり、科目の定義があいまいなのでこちらはこの科目だろうという目標を別の科目に入れるよう指導されて混乱したりしてしまいます。

いつもご支援を賜り誠にありがとうございます。もしセンターで情報があれば、医師がどのようなMRを求めているのか、それを叶えるためのトレーニングはどのようなものがあるのか、について知ることが出来るとありがたいです(すでに発出されていたら申し訳ありません)

支店については、中小メーカーのことも考慮した取り組みを今後も拡大していただけると助かります。

今後教育システムやテキストが変更されていく中で、今回のテキストからイラスト等の図解が減っており、教育担当者が、講義方法について、苦慮しており、今後過去問等の情報が無くなるという事であるが、引き続き公開して頂くことを要望致します。

昨年度は「センター登録企業向けMR認定制度説明スライド」の作成をいただきありがとうございます。直近では、全国の責任者が本社に集まる会議(2024年3月実施)やMRへの継続教育(2024年5月予定)などで活用しています。本スライドを複数回活用することで、医療に携わる者がMR認定制度の歴史や意義をしっかりと認識し続けることに役立っています。本内容をブラッシュアップしたものや、実務教育に資する資料(スライド等)の支援を引き続き希望いたします。

MR認定試験の模擬試験をセンター主催で数回開催して欲しい。CBT方式でかまわないので、是非ご検討ください。傾向が掴めるために薬ゼミの試験よりも受験者数が増えると思います。

いつもお世話になっております。継続教育(実務)を実施いただいているマネージャーは、実務教育(実務)をカウントしているのでしょうか。弊社では現在はカウントしていないのですが、何人も相手に現場で実務研修を実施していただいているので、研修を受けるMRよりよっぽど研修効果を感じられております。他社様はどうされているのか情報があれば共有いただけると幸いです。弊社ではMR職についていない者も、MRの資質維持・向上のため毎年学習ポータルを申し込み、年次ドリルを実施いただいております。ただしわずかですが、1年ブランクが出来てしまうと、次の更新まで毎年年次ドリルをやる意義を感じられないという意見もあるようです。更新の為に年次ドリルをやっているのではなく、MRの資質維持・向上のために実施しているという本来の目的を説明することにはしていますが、「1年ブランクも5年ブランクも同じ」という制度の修正もご検討いただけると幸いです。

(感謝)4月にMR学習ポータルで公開された「MRテキスト2024」を拝見しましたが、リボンメニューにある便利機能が素晴らしいです。特に検索機能が使えることは受講者の学習効率を高めることに大いに役立つと思います。(希望)年次学習ドリルの開始時期を、8月から早められないのでしょうか?これまでは、毎年6月に正誤・追補が出ていたため、それを学習ポータルに反映する期間が必要なために8月からドリル開始になっていたと理解しているのですが、今後、テキストが毎年4月に改訂・更新されるのであれば、ドリルの開始は6月に早めることはできないのでしょうか。(希望)MR認定センター主催の会議や講習会時でハンドアウト等の資料がない時がありますが、何らかの資料を用意していただくことはできないのでしょうか。センターの会議参加後は、部内及び関係部署に報告する必要がありますが、資料がない状態で説明するのは厳しいです。会議後でも構いませんので、PDF等の形で共有をご検討いただけないでしょうか。